

フィリピン土木学会 第39回年次大会 参加報告

石井 弓夫 (建設技術研究所)

伊東 淳 (オリエンタルコンサルタンツ)

柳川 博之 (土木学会国際センター)

2013年11月7日から9日にかけて、フィリピン・ミンダナオ島ダバオ市において、土木学会(JSCCE)が協力協定を締結するフィリピン土木学会(PICE)の第39回年次大会(National Convention)が開催された。JSCCEからは、石井弓夫元会長(建設技術研究所相談役)を訪問団長とする合計3名が参加した。年次大会の参加者は約



写真1 会場受付の様子

3500名であった。

フィリピン土木学会(PICE)

PICEは、マニラに本部を置く会員数約7万5千人の学会である。フィリピン国内に101支部を持つ。JSCCEとは1997年に協力協定を締結し、以来相互に年次大会に訪問団を派遣するほか、多くの交流が行われ



写真2 Momo会長開会挨拶

ている。PICEは1998年にマニラで開かれた第1回アジア土木技術国際会議(CECAR)をJSCCE、アメリカ土木学会(ASCE)と共催し、1999年のアジア土木学協会連合協議会(ACECC)発足の5学会のうちの一つである。

第39回 PICE 年次大会 (39th PICE National Convention)

PICE年次大会は、JSCCEの総会と年次大会に相当し、事業報告、記念講演会、表彰式、国際プログラム、研究発表、Fellowship Nightなどが行われる。また次期会長を選出する選挙の投票も行われ、年次大会の場で決定する。大会はダバオ市内にあるSMショッピングモール付属のSMX会議センターで開催された。ショッピングモールの目抜き場所でPICE大会記念展示会も開催している。会場では、売店があり、PICEのロゴ入りのTシャツのほか、ハンドバッグ、ファッショニングなどを販売していた。

開会式

開会式では、上院議員や開催地であ



写真3 オープニング

るダバオ市長の挨拶、そしてPICEのMomo会長の挨拶により開会が宣言された。印象的だったのは上院議員の講演で、土木技術者への期待、役割などについて、特に若者に対する強いメッセージが感じられた。Momo会長は、挨拶の中で、大会テーマでもあり、2013年8月の6th CECARでACECC加盟学会が署名したJakarta Protocolを紹介した。なおそのタイトルが今回のPICE年次大会テーマともなっている。政府・学会・業界との連携や学会としての取組み、Jakarta Protocolの関連について述べられ、また土木技

術者の役割について強く主張されていた。

Plenary / Special Lecture

午後は、Plenaryとして、PICEの2013年事業報告、表彰式、特別講演が行われた。

特別講演では、PICE Research and Development Officeの設置、倫理綱領 Code of Ethicsに関する取組み、APEC/ASEAN/ACP Engineerの登録について紹介された。

Fellowship Night

一日目の夜は、Fellowship Nightと呼ばれる、ディナーショーのようなイベントが行われた。タレントの司会により進行され、正面ステージでは、ダンス、音楽演奏、くじ引きなどアトラクションが次々に行われ、イベントは深夜まで続いた。

International Roundtable Discussion

2日目にInternational Roundtable Discussionが行われた。テーマは

『International Cooperation Among Civil Engineers on Disaster Risk Management』であり、石井弓夫元会長から東日本大震災を教訓とする災害対応について話題提供を行った。PICEからは、災害発生時の早急な対応を行うため、EQRP (Earthquake Quick Response Program)を設けたことが紹介された。その一環で地震工学に関する講演会を各地で開催したほか、プログラムの事例として、2013年10月にセブで発生した地震への対応を紹介した。

閉会式

最終日の閉会式では、JSCCEとして挨拶の機会をいただいた。石井元会長はその中で、PICE大会への招待と国際ラウンドテーブルでの発表機会の提供に対する感謝の意を述べ、JSCCEが2014年に創立100周年を迎えること、この100年、JSCCEは日本の近代化、戦災と自然災害からの復興に尽力し、日本と世界の持続可能な発展に協力してきたこと、その歴史を記念して100周年記念国際会議やRoundtable Meeting

などを開催することを述べ、橋本JSCCE会長からMomoto会長宛の100周年記念国際会議への招待状を参考資料等とともに手渡した。

その後、技術講演、Momoto会長による優秀活動委員会などの表彰が行われ、閉会した。

台風 Haiyan

今回のPICE年次大会期間中の11月8日には、台風30号(Haiyan、フィリピン名Yolanda)がフィリピン中部を襲い、多数の犠牲者を出した。被害にあわれた方には謹んでお見舞いを申し上げます。PICE年次大会の開催地



写真4 石井元会長の話題提供

のダバオ市は台風の影響はほとんどなく、筆者も難を逃れたが、南側にずれていたらどうなっていたらだろう。運が良かっただけかもしれない。

フィリピンは日本と同様に自然災害が多く発生する国である。防災インフラの整備、気象予測システムの活用、防災教育など、まだまだ日本の経験や技術を活用できることがたくさんある。JSCCEとして、PICEとの連携をより活発にし、もってアジアの防災力向上に貢献するための活動が必要であると強く感じた。



写真5 Jakarta Protocol 署名コーナー